

インドネシアの広場 alun-alun の空間構成変化に伴う学生の認識と利用実態

Study on the influences to student's recognition and activity by the change of alun-alun

小堀 貴子* 古谷 勝則*

Takako KOHORI Katsunori FURUYA

Abstract: This study focuses on alun-alun which is traditional open space in Indonesia. There is not enough open space in Indonesia, so alun-alun is precious place. Recently alun-alun has disappeared because of government policy. In this study, it reveals the influences to people's understanding and action by the change of alun-alun. The object of this study is students of Bogor Agricultural University. The research methods are questionnaire and interview. As a result of this study, the following facts have been revealed. The first point is about alun-alun's familiarity and specialty. More than 90% students know alun-alun and have been there. And 76% students think alun-alun is special space compared to others. The followings are chosen reasons: "meeting place", "special place", "feature characteristic", "relationship with city", and "history". The second point is about change of alun-alun's structure. 65.2% students think alun-alun structure's change is good. That reasons are "variety of activity", "improvement of design", "improvement of facility", and "passage of time". The third point is about people's activity. Then, it is found that especially the activities such as ceremony and sports that need wide space shows difference.

Keywords: Indonesia, alun-alun, urban open space, traditional, change of structure, student

キーワード: インドネシア, アルン・アルン, 都市の広場, 伝統的, 空間構成の変化, 学生

1. はじめに

人々が集う都市において、公園緑地を主とするオープンスペースは不可欠である。特に、都市の景観形成、都市環境の維持・改善、都市の防災対策、生活環境の形成には欠くことができない。しかし時代ごとに求められるオープンスペース像は移り変わっているといえる。かつて人口が急激に増加している時代には、量的なオープンスペースの確保が急務であった。しかし少子高齢化が進み人口が減少している現在、従来のようなオープンスペースの設置は時代に即したものとは言えない。日本のオープンスペースは、その規模により異なるが利用が快適になるように、都市公園法において様々な公園施設が規定されている¹⁾。施設の設置により、人々の行動は直接的にまたは間接的に誘導されている。行政により画一的に設置される公園に対し、住民の要望とずれており利用がされていないという指摘もされている²⁾。真に人々に求められる姿を再度問い直し、現在の都市に必要とされるオープンスペースを構築していく必要がある。

世界第4位の人口³⁾を有しているインドネシアでは、その豊富な人口を源とした経済成長が目覚ましい。首都を中心に、都市の拡張が進むなか、オープンスペースの整備が課題として挙げられている⁴⁾。本研究では、インドネシアの伝統的なオープンスペースである alun-alun を対象としている。Yogyakarta⁵⁾ や Surakarta⁶⁾ の alun-alun は、広大な敷地の中に芝生と数本の木のみが存在する空間であり、ベンチやトイレなどの備え付けられた設備は何もない空間であるにも関わらず、24時間老若男女に利用されている。

既往研究として、田原⁴⁾ がインドネシアのジャワ島の都市を、キャンピング地区・伝統的市街地・植民都市系市街地・計画系市街地の4地区に類型化し、alun-alun を伝統的市街地のオープンスペースとして位置づけている。Ikaputra(1994)⁷⁾ らは、ジャワ島における alun-alun と宮殿、モスク、市場を都市の重要な4要素とし、ジャワ島の8つの歴史的都市で alun-alun の調査を行った。

これより2本の Ficus Benjaming のような王家に関連した神聖なシンボルが、空間構成上や人々の利用上に大きな影響を与えることを明らかにした。これらシンボルがないと、alun-alun は商業的な大衆利用に占められる危険があると述べている。Handinoto(1992)⁸⁾ は、インドネシアの伝統的な建築や都市計画において変化の危機であると述べている。この研究の中で、alun-alun をジャワ島のアイデンティティと捉え、文献調査により植民地時代以前、植民地時代、植民地時代後の alun-alun の大枠を明らかにした。Hadi Susilo Arifin(2013)⁹⁾ は、alun-alun の空間構成変化に対して否定的な意見を述べるとともに、alun-alun のもつ独自性について述べている。熱帯に位置するインドネシアでは、花の植栽を行うことは不適でありコストも高い。芝生面と緑陰のある伝統的な alun-alun はインドネシアに適していると述べている。一方、Erna Winansih(2010)¹⁰⁾ は、噴水やブロック舗装を配した Malang 市の alun-alun について、美的要素やデザインなどを考慮した設計をもとに作られた alun-alun として高く評価している。alun-alun における人々の活動についても着目し、視覚的な美観が人々の alun-alun への帰属意識に結びついているとしている。Merlyna Lim らは(2008)¹¹⁾ は Bandung 市の alun-alun の空間構成の変化による影響について述べている。歴史的な alun-alun では貧富の差を問わず人々に利用されていたが、空間構成変化後の alun-alun では社会的地位の低い貧民層が追い出されていると述べている。このようにインドネシアにおいても alun-alun の空間構成の変化については賛否が分かれている。本論文では、ボゴール農科大学学生の alun-alun への認識を明らかにするとともに、学生の経験をもとに alun-alun の空間構成別の利用実態を明らかにし、空間構成の変化が学生に影響を与えているのかについて明らかにした。また本論文では、伝統的な alun-alun の空間構成のシンプルさについて着目している。alun-alun を利用によって空間を自由に使い分けているオープンスペースとして認識した点に独自性がある。

*千葉大学大学院園芸学研究所

2. 研究方法

(1) 研究方法

インドネシアのジャワ島西部に位置する(図-1)ボゴール農科大学の学生に、選択回答及び記述回答・対話を中心とした調査を二度に分けて実施した。ボゴール農科大学は、農林水産の学部を中心とした総合大学で9学部からなる¹²⁾。ボゴール農科大学を選択した理由は、農科大学であり自然や環境の保全に関心があると仮定したためである。また調査対象を大学生とした理由は、他の世代に比べ英語でのコミュニケーションが可能であるためである。第一次調査では選択回答を中心としたアンケートを直接配布し、第二次調査では選択回答を中心としたアンケートに加え、聞き取り調査を行い詳細な情報を得た。ボゴール農科大学の学部棟は全て連結しており、学生が他学部の建物を通して、キャンパス入り口や図書館・食堂へ移動している。このため特定の学部棟で調査しても多様な学部生から回答を得ることが可能となった。そこで第一次調査はキャンパス入り口に近い Faculty of Agriculture 棟を拠点として調査し、第二次調査は Faculty of Agricultural Technology 棟を拠点とした¹³⁾。現地調査は、表-1の通り2013年3月27日～5月27日、2013年12月7日～2014年3月16日に行った。

(2) alun-alun 概要

alun-alun は、インドネシアのジャワ島に存在する伝統的な広場である。もともとは Yogyakarta や Surakarta において王宮¹⁴⁾の伝統的な行事を行う場として設けられており、儀式や行事に用いられる空間として使用された。王による人民の支配と神と人間との神秘的な合体を象徴するもので、西欧の都市に見られるような市民のための広場ではない⁴⁾。8世紀に建設されたボロブドゥール遺跡の壁画にも alun-alun での市場の様子が描かれている¹⁵⁾。オランダによる統治時代において、alun-alun は増設され、ジャワ島の一つの都市に一つ以上の alun-alun が設置された。また、インドネシアの大都市では、alun-alun とその周辺の都市空間構造に共通性が見られる。図-2のように alun-alun を中心として、東側はチャイナタウンなどの商業施設、西側はイスラム教の宗教施設であるモスク、南側は宮殿や市役所などの政府施設、北側は都市により異なるが刑務所や教育機関などが配置されている⁹⁾。

(3) 第一次調査質問項目

第一次調査における質問調査は、回答者の属性、alun-alun の特別性、alun-alun の空間構成の変化、alun-alun における活動、について調査した。回答者の属性として、①性別、②年齢、③学部、④出身地、を調査した。alun-alun の特別性として、⑤ alun-alun の認知の有無、⑥ alun-alun を訪れた経験の有無、⑦ alun-alun は他のオープンスペースに比べて特別な場所であるかどうか、を調査した。alun-alun の空間構成の変化として、⑧最も好きな alun-alun タイプ、⑨最も目にする alun-alun タイプ、⑩ alun-alun の変化の是非、を調査した。alun-alun における活動として、⑪ alun-alun での活動を5つの大項目に分けて調査した。

(4) 第二次調査質問項目

第二次調査における質問調査は、第一次調査の項目と同じものを使用した。また、記述・対話による聞き取り調査を行い、⑫ alun-alun が他のオープンスペースに比べて特別な場所である理由、⑬ alun-alun の変化の是非の理由、について調査した。

(5) 分析方法

質問調査において alun-alun における活動を「儀式」「運動」「静かな活動」「飲食・買い物」「乗り物」という5つの大項目に分けて調査した。「儀式」項目の活動は、①儀式における利用、である。「運動」項目の活動は、②サッカー、③バドミントン、④散歩、⑤体操、⑥ Ficus Benjaming の木の間を通るゲーム、⑦ 凧

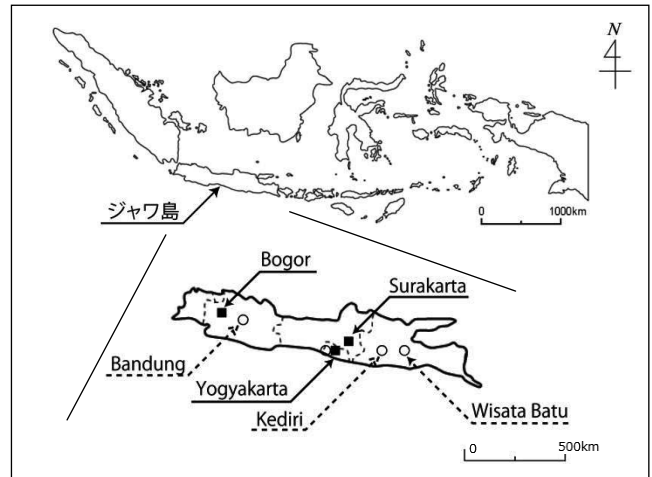


図-1 対象地の位置とジャワ島の都市名

表-1 調査の概要

調査時期	調査日	調査方法	調査人数
第一次調査	2013年5月	選択回答を中心としたアンケート	357名
第二次調査	2014年3月	選択回答を中心としたアンケート	116名
		回答理由のインタビュー調査	

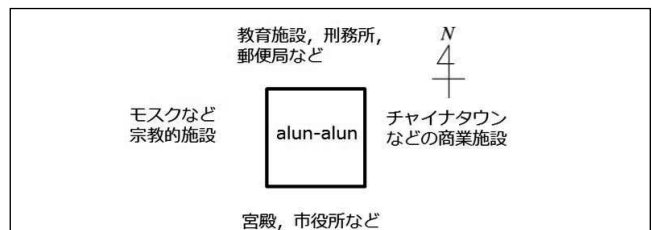


図-2 alun-alun 周辺図

揚げ、である。「静かな活動」項目の活動は、⑧チェス、⑨音楽を聴く、⑩演奏をする、⑪本を読む、⑫座っている、⑬お喋り、⑭絵を描く、である。「飲食・買い物」項目の活動は、⑮買い物をする、⑯飲食を行う、である。「乗り物」項目の活動は、⑰自転車に乗る、⑱ベチャに乗る、⑲馬車に乗る、である。質問調査では、alun-alun を認知しておりかつ訪れた経験がある342名に、各 alun-alun で行う活動について複数回答で問うた。

分析に使用した統計手法はカイ二乗検定である。まず、alun-alun の4タイプと活動の5つの大項目において検定を行った。また、各タイプと活動(19項目)との間で検定を行った。有意水準が1%未満の場合に有意差ありとした。カイ二乗検定の適用基準として、期待値が5未満のセルが、全体の20%未満であり、最小期待度数が1以上とした。カイ二乗検定では全体としての比率の違いは検出されるが、個別の選択肢のどこに差があるかを示さない。そのため、残差分析も行った。残差分析では、標準得点の分布で両側5%のz値(1.96)と、両側1%のz値(2.58)を用いた。分析には、SPSS21.0 for Windows を用いた。

3. 結果と考察

(1) 回答者の属性

第一次調査、第二次調査を合計した回答者の属性は表-2の通りである。対象とした学部はボゴール農科大学の9学部である¹²⁾。主に学部生を対象としたので、19歳～21歳が多く見られる。ボゴール農科大学がジャワ島に位置しているため、回答者はジャワ島出身者が多く見られた。ジャワ島以外の出身者も alun-alun を認知しており、alun-alun を訪れた経験があるので、調査対象とした。

(2) alun-alunが特別な場である理由

本研究では、alun-alun がインドネシアにおける重要なオープンスペースであるとしている^{8) 9) 11)}。本節では、alun-alun の認知、alun-alunを訪れた経験の有無、alun-alunの特別性についての調査結果を表-3に示した。全体の97.7%である462名の学生が、alun-alunを認知していると回答した。全体の94.1%である445名の学生が、訪れた経験があると回答した。また、全体の76.0%である338名の学生が、他のオープンスペースに比べて特別であると回答した。次に聞き取り調査により、他のオープンスペースに比べて特別である、特別ではないと回答した理由について明らかにした。他のオープンスペースに比べて特別であると回答した97名の意見を、表-4のように4つの項目にまとめた。特別であるとした理由項目の中では、様々な利用法(88)が最も多く、人が集まる場(49)としての利用やイベントや儀式を行う場としての社会的な活動(19)としての利用が挙げられた。活動内容が限定されず、広い敷地を必要とする活動から狭い敷地で可能な活動まで幅広く行われていた。次に空間的な特徴(56)が特別であるとして、街の中心に立地している点(15)やalun-alunの広さ(12)が挙げられた。

次に、他のオープンスペースに比べて特別ではないと回答した13名の意見を、表-4のように2つの項目にまとめた。特別ではないと回答した理由項目の中では、他のオープンスペースと人々は同じような活動を行っているという活動面的同質(9)と、機能的にみると差がないという機能面的同質(8)が挙げられた。

(3) alun-alunの変化

近年、alun-alunでは政府の実施のもと日本で言う都市公園に該当するCity Gardenとして造り直そうという動きが見られる⁸⁾。alun-alunを空間構成より図-3のようにタイプ1：芝生型、タイプ2：プランター設置型、タイプ3：テーマパーク型、タイプ4：西洋式公園型の4つに分類した。「タイプ1：芝生型」は、YogyakartaやSurakartaで見られる伝統的な空間構成であり、広場の中心の2本のFicus Benjamingを除き、空間を遮るものがない。これに対して空間構成変化後のものはタイプ2、タイプ3、タイプ4である。「タイプ2：プランター設置型」は、中心の広がりやを遮るように樹木が一定間隔に植栽されている。「タイプ3：テーマパーク型」は、観覧車などを含むアトラクションが設置されている。「タイプ4：西洋式公園型」は、中心に銅像が設置され、幾何学的なデザインがなされている。

質問調査において、alun-alunを認知しておりかつ訪れた経験がある342名に、最も目にするalun-alunタイプを問うと、全体の69%である235名が、図-4のように「タイプ1：芝生型」と回答した。

次に最も好むalun-alunタイプを問うと、全体の49%である168名が図-5のように「タイプ1：芝生型」と回答した。

次に、質問調査においてalun-alunの変化の是非を調査した。回答者はalun-alunを認知しておりかつ訪れた経験がある445名である。全体の65.2%である290名の学生が変化は良いという肯定的な意見を挙げた。一方、全体の33.9%である151名が変化は悪いという否定的な意見を挙げた。聞き取り調査により、alun-alunの変化の是非の理由を問うた。alun-alunを認知しておりかつ訪れた経験がある103名のうち、変化は良いと回答した77名の意見を表-5のように4つの項目にまとめた。変化を良いとした理由項目の中では、利用者意識の変化(47)が最も多く、多くの人が訪れるようになるなどの利用の増加(16)やalun-alunが面白くなるなどの魅力の向上(15)が挙げられた。次に施設の充実(38)が多く、新たな施設を設置するなどの中へ大規模の施設(14)や、アトラクションの設置などの遊具施設の設置(8)が挙げられた。次に、変化は悪いと否定的な回答をした12名の意見を表-5のように3つの項目にまとめた。変化を悪いとした理由項目の中では、環境の変化(12)が最も多く、木々が失われる(3)などの自然環境の悪化(5)や、散乱したごみ箱(2)や落書き(1)を危惧する施設への悪影響(4)が挙げられた。次に、歴史的価値の喪失(9)が多く、ジャワ独自の様式が失われることを危惧するオリジナル性の喪失(5)や伝統の喪失(4)が挙げられた。

表-2 回答者の属性

性別	一次調査		二次調査		学部	一次調査		二次調査			
	人数	パーセント	人数	パーセント		人数	パーセント	人数	パーセント		
男性	135人	37.8%	40人	34.5%	A	130人	36.4%	10人	8.6%		
女性	218人	61.1%	75人	64.7%	B	41人	11.5%	2人	1.7%		
不明	4人	1.1%	1人	0.9%	C	38人	10.6%	14人	12.1%		
年齢	18	4人	1.1%	4人	3.4%	D	29人	8.1%	9人	7.8%	
	19	49人	13.7%	39人	33.6%	E	43人	12.0%	14人	12.1%	
	20	108人	30.3%	27人	23.3%	F	19人	5.3%	25人	21.6%	
	21	98人	27.5%	24人	20.7%	G	14人	3.9%	24人	20.7%	
	22	46人	12.9%	7人	6.0%	H	29人	8.1%	12人	10.3%	
	23	15人	4.2%	6人	5.2%	I	9人	2.5%	6人	5.2%	
	24	9人	2.5%	2人	1.7%	不明	5人	1.4%	0人	0.0%	
	25	13人	3.6%	3人	2.6%	出	ジャワ	260人	72.8%	88人	75.9%
	26	5人	1.4%	1人	0.9%	身	ジャワ以外	90人	25.2%	28人	24.1%
	27	2人	0.6%	1人	0.9%	身	不明	7人	2.0%	0人	0.0%
	28	1人	0.3%	1人	0.9%	合計	357人	100.0%	116人	100.0%	
	29~	6人	1.7%	0人	0.0%						
	不明	1人	0.3%	1人	0.9%						

※パーセントは四捨五入しているため合計と、内訳の総計は必ずしも一致しない。

表-3 alun-alunの特別性

	第一次調査 (N=357)		第二次調査 (N=116)		合計 (N=473)	
	人数	パーセント	人数	パーセント	人数	パーセント
認知あり	349名	97.8%	113名	97.4%	462名	97.7%
訪れた経験あり	342名	95.8%	103名	88.8%	445名	94.1%
特別な場所である	248名	69.5%	97名	83.6%	345名	72.9%

表-4 alun-alunが特別である・特別でない理由

課題項目(回答数)	課題項目の詳細(回答数)	解答例(回答数)	
特別であるとした理由	様々な利用法(88)	人が集まる場(49)	a:人が集まる場(27), b:家族や友人と過ごす場(15), c:人に会おう場(3), d:賑やかな場(3), e:人で混み合っている場(2), f:コミュニティの場(1),
		社会的な活動(19)	g:イベント(6), h:儀式(5), i:観光の場(3), j:社会的な活動の場(2), k:文化的な活動の場(1), l:集団礼拝を行う場(1), m:住民に必要な街の情報を与える場(1)
		狭い敷地で可能な利用法(14)	n:リラックスする場(3), o:リフレッシュする場(3), p:休憩場所(2), q:子供の遊び場(2), r:芸術の創造の場(1), s:クラブ活動(1), t:単純な活動の場(1), u:考えを議論し共有する場(1), v:エンターテイナーの音楽を聴く場(1)
	空間的な特徴(56)	広い敷地を必要とする利用法(6)	w:スポーツをする場(3), x:レクリエーションの場(2), y:ピクニックをする場(1)
		街との関係性(25)	z:街の中心に立地している(15), aa:街(地区)の家(4), ab:モスク, 宮殿, 行政施設, 市場などの周辺の建物との関係(3), ac:街(地区)に一つ(2), ad:周辺環境との緩衝地帯(1)
		空間構成(23)	ae:広さ(12), af:緑地が広がること(7), ag:移動販売がある(3), ah:空間的に何も無いこと(1)
	特別性(23)	植生(8)	ai:木がない(4), aj:芝生が広がる(2), ak:Ficus Benjamingのような特別の植栽(1), al:花がない(1)
		独自性(11)	am:独自の空間構成(様式)を持っている(5), an:独自の利用がされている(3), ao:独自の方針(ポリシー)を持っている(2), ap:ユニークな存在(1)
		歴史性(8)	aq:伝統的なオープンスペース(3), ar:歴史(2), as:遺産(1), at:伝統的なLandscape(1), au:文化の象徴(1), av:公共の財産(1)
	利用の自由(16)	特別性(4)	aw:人々にとって特別な場所(3), ax:local societyが集まる特別な場所(1)
活動内容が限定されないこと(14)		ay:幅広くさまざまなことに利用できる場(13), az:活動が限定されてないこと(1)	
特別でないとした理由	同質性(17)	利用者が限定されないこと(2)	ba:様々な年代の人が一緒に過ごす場(1), bb:街の人がだれでも行くことのできる場(1)
		活動面的同質(9)	bc:人々の利用法をみると他のオープンスペースと同じ(8), bd:かつてのalun-alunとは違う(1)
	機能面的同質(8)	be:他のオープンスペースと同じ機能(6), bf:ガーデンの一つにすぎない(1), bg:ジャカルタのalun-alunに大きな都市のものはalun-alun独自の機能を持っていない(1)	

<p>タイプ1：芝生型</p>	<p>タイプ2：プランター設置型</p>
<p>場所：Yogyakarta (ジャワ島中部) 凡例：A=シンボルである2本のFicus Benjaming, B=道路</p>	<p>場所：Bandung (ジャワ島西部) 凡例：A=池, B=樹木とその囲いのベンチ, C=歩道 その他：①の写真は、西側に隣接するモスクより撮影</p>
<p>タイプ3：テーマパーク型</p>	<p>タイプ4：西洋式公園型</p>
<p>場所：Wista Batu (ジャワ島東部) 凡例：A=噴水, B=観覧車, C=果物の形の巨大モニュメント</p>	<p>場所：Kediri (ジャワ島東部) 凡例：A=彫刻, B=歩道</p>

図-3 空間構成別 alun-alun タイプ

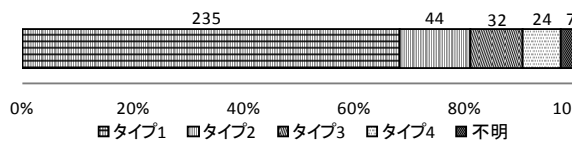


図-4 最も目にする alun-alun タイプ

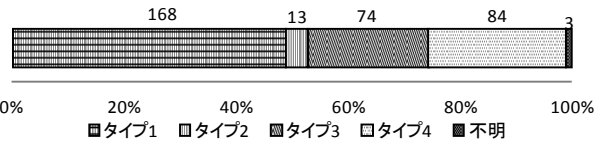


図-5 最も好む alun-alun タイプ

表-5 alun-alun 変化の是非

課題項目(回答数)	課題項目の詳細(回答数)	解答例(回答数)
変化を良いとした理由	利用者の増加(16)	a:多くの人が訪れるようになる(7), b:人が惹きつけられる(6), c:利用が促進される(2), d:人を呼ぶことができる(1)
	魅力の向上(15)	e:面白くなる(7), f:良くなる(5), g:魅力的になる(2), h:興味を感じさせる(1)
	利便性の向上(8)	i:快適になる(5), j:便利になる(3)
	活動の多様性(5)	k:活動の幅が広がる(3), l:単純でなくなる(1), m:退屈しない(1)
	その他(3)	n:利用者が望むのなら変化は良い(2), o:alun-alunの保存に熱心になる(1)
	中～大規模な施設の設置(14)	p:施設が設置される(8), q:常設の店舗が設置される(3), r:モスクが設置される(1), s:駐車場が設置される(1), t:トイレが設置される(1)
	遊具施設の設置(8)	u:アトラクションの設置(4), v:遊ぶスペースができる(4)
	機能性(7)	w:様々な機能を持つ(7)
	小規模な施設の設置(6)	x:電灯が設置される(3), y:ベンチ・テーブル・椅子が設置される(3)
	経済的メリット(3)	z:経済的に良い(2), aa:従来の何もないものより場所の価値が高くなる(1)
変化を悪いとした理由	美しさ(10)	ab:美しくなる(6), ac:精巧になる(2), ad:色彩豊かになる(1), ae:多くの木を植栽できる(1)
	デザインの独自性(8)	af:バリエーションの多様性(5), ag:ユニークになる(2), ah:伝統とモダンの組み合わせ面白(1)
	清潔さ(3)	ai:きちんとしている(2), aj:清潔になる(1)
	時代(16)	ak:モダンになる(6), al:改革(3), am:グローバル化(3)
	技術の導入(4)	an:新しい技術の導入(1), ao:電気による装飾(1), ap:防犯技術の導入(1), aq:排水性の向上(1)
	自然環境の悪化(5)	ar:木々が失われる(3), as:新鮮な空気を作り出すことができなくなる(2)
	施設への悪影響(4)	at:散乱したごみ箱が多くなる(2), au:落書きが多くなる(1), av:カフェなどの常設店は通行の妨げとなる(1)
	雨水吸収力の低下(3)	aw:芝生は水が吸収されるが石舗装では水を吸収することができなくなる(3)
	オリジナル性の喪失(5)	ax:ジャワ独自のオリジナル様式のものを守る必要がある(3), ay:alun-alunの持つ特別な個性の保存(2)
	歴史的価値の喪失(9)	az:歴史的象徴であるため(1), ba:伝統的なものが最も美しい(1), bb:伝統的なものの保存(1), bc:子供たちに伝える文化を保存(1)
社会的機能の変化(5)	文化的・社会的位置付けの喪失(4)	bd:文化的な活動を行う場所が失われる(2), be:社会的な場所としての機能が失われる(1), bf:alun-alunの存在が単純なものとなる(1)
	利用者の限定化(1)	bg:alun-alunが特定の一部の人のための場となる(1)

(4) alun-alunのタイプ別活動

alun-alunを認知しておりかつ訪れた経験がある342名に対して各タイプと活動についてカイ二乗検定を行った結果について、図-6に示した。その結果、「儀式」、「運動」、「静かな活動」、「乗り物」、「飲食・買い物」の5つの大項目すべてにおいて有意差が見られた。タイプ1：芝生型では、「儀式」が42.9%、「運動」が90.2%、「静かな活動」が83.8%、「乗り物」が28.3%、「飲食・買い物」が55.7%であり、有意に多かった。これより、タイプ1では、多様な利用が可能である空間と認識されていることが明らかになった。タイプ2：プランター設置型では、「儀式」が2.8%、「運動」が42.6%、「静かな活動」が50.4%、「乗り物」が10.1%で、「飲食・買い物」が40.1%であり、有意に少なかった。これより、今回調べた項目においては、他のタイプに比べて活動が活発ではないと認識されていることが明らかになった。図-3のようにタイプ2のalun-alunは樹木の周囲にベンチが設置されているため、静かな活動が多いと推測される。タイプ3：テーマパーク型では、「運動」が75.9%、「飲食・買い物」が58.8%であり有意に多く、「儀式」が回答者の0%であった。また、タイプ間での有意差が見られなかったものの「静かな活動」が70.0%と活動が多い。タイプ4：西洋式公園型では、「儀式」が1.7%であり有意に少なく、「静かな活動」が81.0%であり有意に多かった。また、タイプ間での有意差が見られなかったものの「運動」が68.9%、「飲食・買い物」49.9%と活動が活発であった。これより、タイプ3、タイプ4は儀式のような伝統的なalun-alunとし

での利用はされていないものの、「運動」「静かな活動」「飲食・買い物」が行われていると認識されていることが明らかになった。タイプ2、タイプ3、タイプ4では図-3の写真の通り、中心の空間的広がりを守るものが設置されている。そのため、儀式のような広い敷地を必要とする活動がタイプ1に比べて活発ではないと考えられる。

次に、5つの大項目における19項目の活動においてカイ二乗検定を行った結果15項目で有意差が見られた。差が見られたのは①儀式における利用、②サッカー、③バトミントン、④散歩、⑤体操、⑥Ficus Benjamingの木の間を通るゲーム、⑦凧揚げ、⑧チェス、⑨音楽を聴く、⑩本を読む、⑪座っている、⑫買い物をする、⑬自転車に乗る、⑭ベチャに乗る、⑮馬車に乗る、である。特に運動の内容に差が見られたので図-6に示した。タイプ1では「運動」の6項目すべてで有意に多く、回答者はタイプ1において調査項目の運動が活発であると認識していた。これより、タイプ1において、サッカーのような広い敷地を必要とする運動から体操のような狭い敷地で行う運動まで、さまざまな運動を行う空間であると認識されていることが明らかになった。「散歩」はどのタイプのalun-alunでも最も行われている活動であり、タイプ1では79.3%であり有意に多く、タイプ2では65.5%、タイプ4では65.5%であり有意に少なく、またタイプ3では他のタイプに比べて有意差は見られなかったものの74.5%の回答者が活動を行うと認識していた。

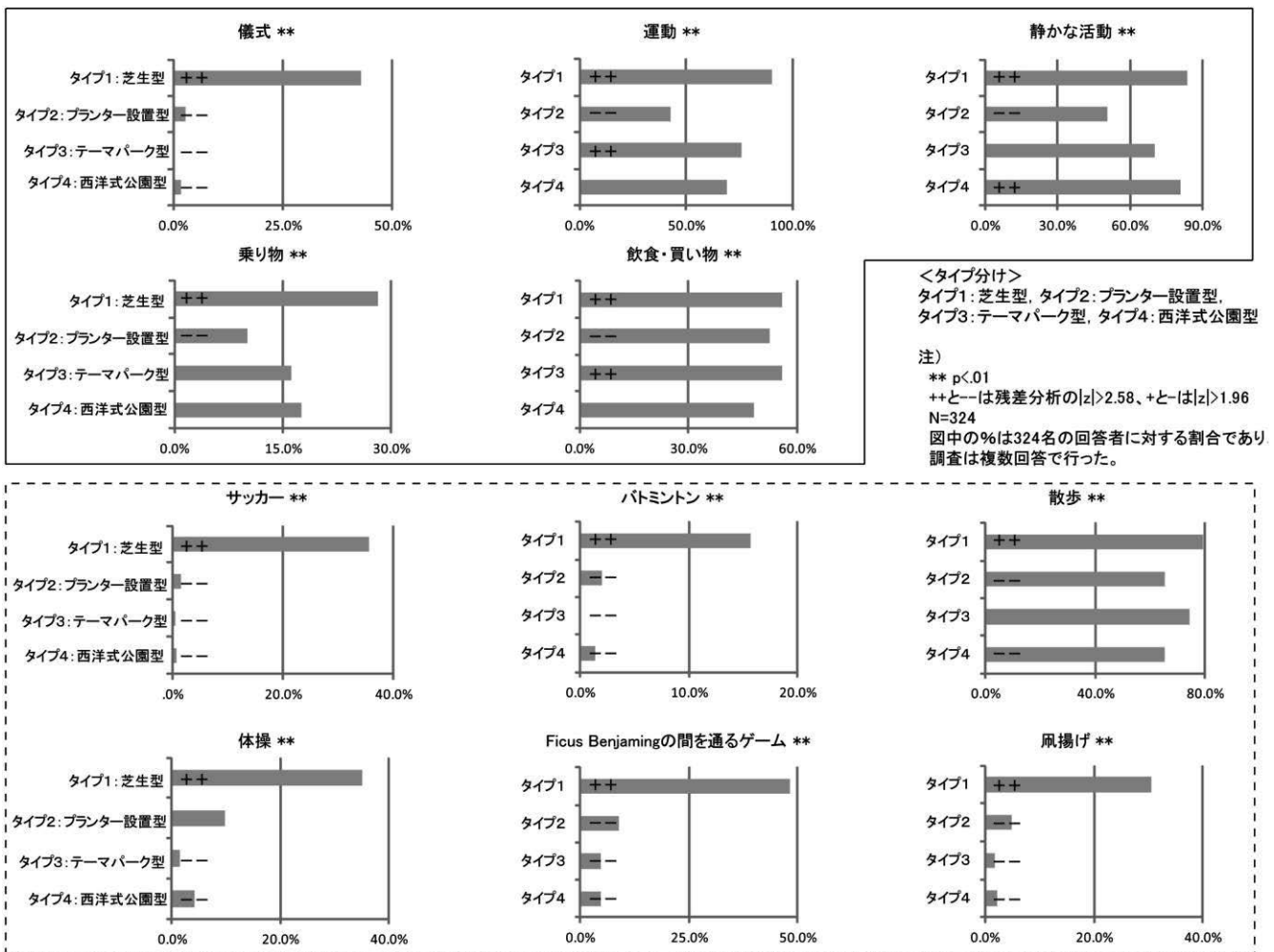


図-6 alun-alunのタイプ別活動

4. 総合考察

ボゴール農科大学学生においては、alun-alun は広く認知されており、かつ訪れた経験も多かった。伝統的な alun-alun の空間構成はタイプ1の芝生型であり、中心に2本の Ficus Benjaming があある芝生広場である。この伝統的なタイプは、回答者の69%が最も目にする回答し、回答者の76%が他のオープンスペースと比べて特別なものであると考えていた。alun-alun が特別な理由としては、alun-alun の歴史的な背景への回答者の理解がある。現在でも、alun-alun では王宮に由来するジャワ島独自の伝統的行事やお祭りの場として使われている。しかし、このように alun-alun を特別であると考えている者が多い一方、alun-alun の空間構成の変化を良くないとした回答者は34%のみであった。特別なものとは認めているものの、alun-alun の変化に対して危機意識を有している者は少なかった。また alun-alun を特別な場所ではないと考えている回答者は24%であり、その理由として、伝統的な行事や祭りが行われるのは一部分のみで、その他は公園や広場と同じと回答した。より快適により楽しい場所にするために、alun-alun の変化に対して肯定的である者が多く、回答者の65%は変化が良いと回答した。空間構成の変化がジャワ島の伝統や文化に与える影響は大きいと考えられる。実際に、alun-alun の空間構成別の活動について尋ねると、タイプ1の芝生型は、多様な利用が可能である空間と認識されているものの、その他のタイプの alun-alun では儀式のような伝統的な利用はされていないと認識されていた。

インドネシアにおいても City Garden の建設が行われているが、alun-alun は City Garden とは全く別のものであり⁹⁾、alun-alun の利用を促進させるために、空間構成を変化させるといった在り方は、改めて問い直す必要があると言える。

5. おわりに

本論文において、alun-alun の空間構成の変化に着目し、ボゴール農科大学学生の経験に基づいた認識及び利用実態を明らかにした。また、既存の alun-alun を空間構成から4つのタイプに分類してその特徴を明らかにし、伝統的な空間構成である alun-alun と空間構成変化後の alun-alun において、活動内容に変化が生じていることが明らかになった。近年 alun-alun の空間構成の変化について議論がされているが、回答者は現在も変わらず伝統的な芝生型の alun-alun を特別な場所であると認識しているとともにその空間構成を好んでいた。また、回答者は伝統的な芝生型の alun-alun において他の空間構成に比べ多様な活動を行っていた。しかし alun-alun を特別であると考えている者が多いものの、空間構成の変化に対して肯定的である者が多かった。このように人々の変化への危機意識が薄れている中で、ジャワ島の伝統や文化に与える影響は大きいと考えられる。今後、その価値を保存する配慮が必要であるといえる。人々が“何もない” alun-alun の空間を訪れる理由を理解することが、今後のインドネシアのオープンスペースを考察する際に、必要であると考えている。

今後の課題として、①幅広い年代の利用者に調査を行うこと、②タイプ1の芝生型である Yogyakarta や Surakarta の alun-alun において、現地での調査により空間を分析し、詳細な利用について調査を行いたい。

補注・引用文献

- 1) 都市公園法 (1956) : 第一章総則第二条
- 2) 白幡洋三郎 (1991) : 公園なんてもういらぬ : 中央公論, p184-197
- 3) 外務省の HP によると、インドネシアの人口は約 2.47 億人

- (2012 年、インドネシア政府統計) である。
<<http://www.mofa.go.jp/mofaj/area/indonesia/data.html>>, 2014.5.1 更新, 2014. 9. 23 参照
- 4) 田原直樹 (1995) : インドネシア、ジャワの都市におけるオープンスペースの文化的特徴に関する一考察 : 日本造園学会誌, 58(5), 57-60
 - 5) Yogyakarta はジャワ島中部に位置する。人口約 39 万人、面積約 32.8km² の都市である。Yogyakarta に王家が分家された後、宮殿とともに alun-alun が設置された。
 - 6) Surakarta はジャワ島中部に位置する。人口約 50 万人、面積約 4.08km² の都市である。マタラム王国の王都であり、宮殿とともに alun-alun が設置された。
 - 7) Ikaputra・Kunihiro Narumi (1994) : A study on the Transformation of Symbolic Square in Javanese Historical Cities : 日本都市計画学会学術研究論文集, 29,337-342
 - 8) Hadinoto (1992) : Alun-alun Sebagai Identitas Kota Jawa, Dul Dan Sekarang : Dimensi18/ARS, 1-15 では、Yogyakarta の alun-alun の歴史性についてインドネシア語で記載されている。
 - 9) Hadi Susilo Arifin (2013) : Tak Perlu Dikotomi alun-alun dan taman : Wacana – Radar Cirebon Group, Rabu Wage-10 April 2013/29 Jumadil Awal 1434H, では alun-alun と City Garden の違いについてインドネシア語で記載されている。
 - 10) Erna Winansih (2010) : Estetika Simbolis – Sensori pada Ruang Publik Di Alun-Alun Malang : Local Wisdom-Jurnal Ilmiah Online ISSN : 2086-3764, 20-28 では Malang 市の alun-alun 空間構成についてインドネシア語で記載されている。
 - 11) Merlyna Lim・Rita Padawang (2008) : Contesting alun-alun Power relations, identities and the production of urban space in Bandung, Indonesia : IDPR 30 (3) , 307-326
 - 12) ボゴール農科大学は、ジャワ島西部のボゴール市に位置しており農学に関連した9学部 (A: Faculty of Agriculture, B: Faculty of Veterinary Medicine, C: Faculty of Fisheries and Marine Science, D: Faculty of Animal Science, E: Faculty of Forestry, F: Faculty of Agricultural Technology, G: Faculty of Mathematics and Natural Sciences, H: Faculty of Economics and Management, I: Faculty of Human Ecology) からなる。A~I の記号はボゴール農科大学の表記と統一している。約 24,000 人が在籍している。
 - 13) 両学部間は約 150m 離れた位置にある。第二次調査は直接面接方式で聞き取り調査をしており、第二調査時に第一次調査に回答していると答えた回答者がいなかったため、第一次調査と第二次調査の回答者に重複が無いと判断した。
 - 14) 18 世紀以前にジャワ島を支配していたマタラム王朝は、Surakarta を王都としたが、その後王位継承を巡る内紛から王朝が二つに分かれ Yogyakarta にも王家が作られた。それ以降、近接した土地に二つの王朝が存在することとなった (図-1)。
 - 15) R. Siti Rukayah and Bharoto (2012) : Bazaar in Urban Open Space as Contain and Container Case study Alun-alun Lama and Simpang Lima Semarang, Central Java, Indonesia : Procedia-Social and Behavioral Science 50, 741-755